

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 事業所番号 (0170503908), 法人名 (株じょうてつケアサービス), 事業所名 (グループホーム菜の花 上野幌館 2階), 所在地 (札幌市厚別区上野幌1条4丁目2-1), 自己評価作成日 (平成30年11月11日), 評価結果市町村受理日 (平成31年2月19日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 基本情報リンク先URL (http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action kouhyou\_detail 2018\_022 kani=true&JigyosyoCd=0170503908-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 評価機関名 (企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部), 所在地 (札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階), 訪問調査日 (平成30年12月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設12年を経過し入居者様の入れ替わりが進んでいる。重度の介護が必要な方と、比較的軽い方が混在する状況となっている。看取りと活動的な方とのバランスが取れた対応が、ホームとして重要な取り組みの一つとなっている。ホーム・ご家族一体となって支えるケアを目指している。
・入居者様一人一人が集団生活であっても『個』が重視され、ご自身のペースが守られるケアを心掛けている。天候が良い日の散歩や外気浴・屋外ティータイム、冬期を除く毎月の外出レクなどを行っている。
・1階2階の職員交流を進めユニットが違っても、全ての入居者様へ変わらないサービスが提供できることを目指している。
・1階2階合同行事として敬老バーベキュー大会・クリスマス会などを行い、1階2階の区別なく入居者様が楽しめる行事となるよう趣向に配慮し、入居者様を中心にご家族とホームが一体となり支援していくよう努めている。
・年4回の避難訓練の中に最近の自然災害を考慮し地震や水害の避難訓練も実施している。先の胆振東部地震に際しても職員の冷静な対応と、災害備蓄食料や発電機などが役立ち無事乗り切ることができた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市厚別区の南方面国道274号線に程近い閑静な住宅地に位置する2階建て2ユニットのグループホームである。開設12年を経過しているが、ホーム内は明るく広くゆったりとしており、温度や湿度も適切に管理され、採光がよく居心地のよい住まいである。法人は、老舗のグループ会社で地域からの信頼も厚く、平成14年から介護事業に関わり、長年培ったノウハウが活かされている。当事業所は、利用者の『個』を重視し、共同生活の中でもひとり一人に寄り添ったケアに努めている。利用者は地元出身が殆どで、家族や友人・知人の来訪が多く、事業所主催行事の敬老会バーベキュー大会やクリスマス会などには家族が多数参加して楽しい時間を過ごしている。また、終末期についても積極的に対応しており、職員は看取りの事例を基に学びながらチームで連携して支援している。胆振東部地震では、日頃から備えてある備蓄品や発電機などの備品で職員が冷静に対応し、事故もなく乗り越えた。これからも地域の一人としての認知症高齢者を支える事業所に期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Status (O/△/×), and Achievement Level (1-4). Rows 56-62 describe various service outcomes and their evaluation.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全事業所統一された法人理念、ケア理念、行動理念があり、常時確認できるようリビングやスタッフ、管理者ルームに掲示している。また毎月ユニット目標を理念に基づき作成し意識付けを行っている。	理念は、ケア理念を行動理念に改定し、全事業所統一とした。事業所内に掲示し、パンフレットにも掲載しており、職員は、名札の裏に理念が記載されている。理念を基に毎月目標を立て、結果の振り返りを行い職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入会し、ゴミ拾い清掃、町内会総会等は毎年参加している。また近隣幼稚園が毎年各クラス毎に来館し歌や踊りを披露、一緒に手遊びなど行い交流を深めている。	ゴミ拾いなど町内会行事に参加しており、近くの幼稚園の園児による遊戯披露やバーベキューにボランティアの手伝い参加がある。また、近隣のスーパーへ調理レクの買い出しに利用者も一緒に外出するなど日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して日常的な関わり方や対応方法などを説明している。また夏祭りやバーベキュー大会等で直接地域の方にケアの様子を見てもらっている。認知症110番登録や地域向け菜の花通信の発行をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の様子や取り組み、行事活動はスライドショーを活用しながら報告している。参加者より意見があったAED訓練開催は地域消防団が講師となり実施している。	運営推進会議は、家族や地域包括支援センター担当者、町内会役員や民生委員、消防団などが参加して、定期的に関わり、運営状況の報告やAED訓練等の勉強会、意見交換など行い、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括は運営推進会議に参加しており、実情やケア内容を報告している。札幌市への報告書類は必要時随時、直接持参して提出するなど協力関係の構築に努めている。	区役所介護保険課と更新手続きや認定手続きなどで定期的に関わり、保護課も定期的に訪問がある。また、運営推進会議に地域包括支援センター担当者が参加しており、情報交換を行うなど協力体制を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会の他、年間研修プログラムを組み本社研修、ユニット会議、運営推進会議内で取り上げマニュアルに沿って具体的な拘束行為などを挙げ確認と理解に努めている。日常業務中に疑問や不安に感じたことはその都度話し合ったり本社教育課に相談を行うなどしている。	法人内に身体拘束等適正化委員会を設置して、指針やマニュアルを整備し定期的に検討会を実施している。また、内部研修会を年2回定期的に関わり、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記身体拘束同様マニュアルに沿って定例ユニット会議にて具体的な内容の理解に努めている。全体的に疑問や不安に感じたことはその都度管理者含め話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は札幌市主催で行われた権利擁護研修に参加し、その内容を定例ユニット会議を通じて職員伝達研修している。現在これらを活用する対象者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解約時は本社営業部長と管理者が同席し入居者様やご家族に説明を行っている。その際入居者様やご家族が話しやすくリラックスできるよう堅苦しい雰囲気にならないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には日常の関わりの中でその都度意見や要望等を伺うよう努めている。ご家族には面会時や電話、介護支援経過表の提示などの機会を通して伺うようにしている。	ホーム便りを毎月発行して、家族へ運営状況を報告している。玄関には意見箱を設置し、本社にてアンケート調査を実施して積極的に家族の意見を聞いている。また、利用者が殆ど地元出身の為、家族の来訪が多く、来訪時に意見や要望を聞き取り、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に現場に入り全体的に職員の意見や提案を聞くようにしている。代表者は管理者への面談などにより現況把握に努める他、行事や会議等の機会を通じてその都度意見を聞く姿勢を取っている。	ユニット会議は月1回開催し、毎日の申し送りは2ユニット合同で行っており、管理者会議は法人内で月1回あり、リーダー会議は2ヶ月に1回実施している。また、個人面談は年度初めに1回行い、他は随時行っており、職員からの意見や提案は運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務労働状況等を教育課や管理者から報告を得ており就業規則に則って給与や手当、公休等に反映させている。管理者は各職員の生活実情や体調等に配慮しながら勤務状況に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部では新人研修や感染研修などの機会を設けている。代表者は1年以上勤務し介護資格がない職員に対して、介護従事者初任者資格取得の助成や実践者研修等を積極的奨励し、スタッフが受講できる体制作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	代表者は管理者や職員が札幌市や区が開催する研修会、勉強会に参加する機会を通じ、他事業所や他施設との管理者や職員との意見交換や交流できる場を設けサービスの質の向上に繋げる取組を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するに当たって事前にご本人やご家族と面接を必要によって複数回行っている。話しやすい環境や雰囲気作りに努め、安心して信頼関係が築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の問い合わせ、見学、相談時の段階からご家族に不安に思うこととお聞きし、関係作りに努めている。サービス開始が決まった段階では更に必要な情報収集や確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時や面接時からご本人やご家族の意見や要望、以前利用していたサービス内容や情報などを基に、必要としている支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は日常生活の中で入居者様ができることを見極め、入居者様と一緒に洗濯物干しや畳み、食器やお盆拭きなどの家事参加、行事の飾り物を作る創作活動など役割を持ちながら過ごしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りでは会場にて入居者様、ご家族同伴でゲームに参加したり、敬老バーベキュー大会ではテント設営、バーベキューの準備・調理・食事介助・後片付け等の協力、クリスマス会ではファミリーコンサートなど職員と一緒に支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やご家族、遠方のご親戚が面会に来ている他電話もある。慶事の贈答品やお手紙が直接送られてきた時はお礼の電話を掛ける支援をしたり、ご家族に報告を入れるなどして馴染みの関係が途切れないように努めている。	利用者が殆ど地元出身の為、家族や友人、知人の来訪が多い。お墓参りは家族と一緒に رفتり、買い物などの外出ついでに元の住んでいた家に寄るなど関係継続の個別支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士でお話しなどができ、楽しめるように食事席の位置の工夫を行っている。なお職員も入居者様の橋渡しができるよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様のご家族がダスキンの仕事をしており、そのことからレンタル利用している。退居後もそのまま継続し近況を伺っている。別のご家族は退去後も機会を見てファミリーコンサートを開いてくださる。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での関わりの中で会話が通じる方も通じない方も本人の発する言葉や行動、様子を職員の複数の目で観察し、ご家族からの情報も基になるべく本人の希望や意向に沿えるよう努めている。	日常生活に関わることで、利用者ひとり一人の思いや意向を聞き、職員みんなで検討して希望や意向を把握するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前、若しくは入居時にご家族に生活歴の基本シート記入の協力を頂き、他の介護サービスを利用していた場合はその情報を取り寄せている。入居後はご家族の面会時等に必要な生活歴を随時伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各入居者様との関わり、生活記録、体調・排泄・水分摂取・食事量チェック表等を参考に職員間で申し送り情報共有を行い、個々の入居者様の現状把握に努めている。また採血の数値などから栄養スクリーニングを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例ユニット会議や日々の業務内での気付きや意見、アイデア、面会時のご家族との話し合い、訪問診察時の主治医や週1回の訪看日に本社看護師の意見等を参考に現状に即したケアプランが作成できるように努めている。	日々のケアで気付いたことや家族からの意見や要望、医師や看護師の意見等の情報も含めて、定例カンファレンスでモニタリングして検討し、現状に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、状態変化時も含め都度個別記録に記入している。入居者様の担当スタッフが毎月ケアプランに対する評価を行い、ユニット会議にて職員全体で評価検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方居住ですぐ対応できない場合など対応が困難な時には、専門外来受診や個別の買い物代行を行い、柔軟な対応が出来るよう支援している。入院時にはお見舞い、情報収集を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護度の重度化により娯楽場所や外食場所へ出向くのが難しくなっているが、施設の下見や施設側担当者との打ち合わせにより、問題解決をし安全に楽しく過ごせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居契約締結時、かかりつけ医について説明を行い本人やご家族が検討された上でかかりつけ医を選択、決定している。月に2回定期訪問診療の他、必要時は24時間対応の診療を受けている。	専門医等のかかりつけ医は、家族が同行して受診している。協力医療機関は月2回の訪問診療で、看護師は本社から週1回の訪問にて24時間の体制で、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回本社看護師が訪問、医療的な健康管理の報告・相談を行っている。専門外来受診の必要有無の判断等のタイミングや様子観察等の指示をもらい、受診した場合は経過報告を行い共に観察を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書にて情報を提供している。入院中は都度面会に行き本人の状態や状況確認で信頼関係保持に努めている。医師からの説明時ご家族の了承を得て同席し体調変化時はすぐ主治医と連携を取るように定期診療時情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居契約締結時に書面で説明の上、現時点の看取りの意向書を記入し頂いている。状態変化の時は看取り介護指針に則りご家族・主治医・本社職員・管理者との話し合いの場を設け、その都度意向を再確認している。	入居契約時に重度化した場合の対応について説明し同意書を交わしている。重度化した時に、主治医より再度の説明をし、本人家族と検討して、看取りの意向の場合は意向書を交わし、医師や看護師と連携して支援に取り組んでいる。また、事例のマニュアルも作成して学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って対応できるよう常時職員が閲覧できる場所、職員室に掲示している。また緊急時を予想できる場合直接主治医に指示をもらい職員間で情報共有を図り対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回の日中、夜間想定避難訓練を実施している。自然災害に備え食料品や定期薬確保、発電機準備もある。発電機操作は訓練に含めている。緊急連絡網には地域消防団や町内会も登録している。	避難訓練は、火災で2回、水害と地震で2回の計4回消防署と消防団の指導の下、備蓄や備品を整備して、地域の方の協力により定期的実施して、災害の対策を行っている。	

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導時の声掛けは人前で行わないことや失敗時は職員が騒がずに迅速に後始末対応すること、言葉掛けする時の位置やタイミングに配慮すること、入浴時には下半身をタオルで覆うなどの対応を意識している。	人格の尊重とプライバシーについては、事業所内部で接遇やコミュニケーションの研修を定期的に行っており、声掛けなど職員間で互いに注意し合うなどの対応で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりや観察からご本人の意思を尊重できるように心掛けている。笑顔が多かったり、反応が良い時は言葉や身振り手振りを駆使しながら気持ちを伝え自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様の現況に合わせ、なるべく個々のペースが守られ生活しやすいよう、生活リズムに合わせて業務内容を見直し統一したケアができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容ではご本人の希望により、髪を染めたり髪型を決めてもらっている。衣服は自身で選び好きな衣類を着て頂いている。日中も衣類や頭髮の乱れがないか注意し身だしなみに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事や外食時のメニュー、おやつはその時の入居者様の要望に沿った内容を心掛けている。ミキサー対応の方は彩や形態も考えながら対応している。また食器拭きを行って頂き、一人一人の力を活かすよう努めている。	献立と食材は業者委託により供給され、職員と一緒に片付けや食器拭きなどを手伝っている。行事食は、バーベキューやハンバーグ、餃子、おはぎ、フルーツポンチなど多彩である。外食は、和風レストランや回転すしなど利用者の好みの飲食店へ出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬な季節の食べ物も取り入れながら栄養バランスを考慮した献立メニューを作成している。配達される食材をメニューに基づいて調理している。本人の状態や状況に合わせて水分も含め食形態を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア実施している。各入居者様の状態に合わせて、硬さの異なる歯ブラシ、スポンジブラシ、口腔ケアティッシュ、歯間ブラシを活用し口腔の健康を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて把握し定期的にトイレ誘導や介助を行っている。夜間オムツ対応の入居者様も排泄排便状況を見て、二人介助でトイレでの排泄を促し、残存能力を活かした排泄が出来るよう介助している。	利用者個々の排泄チェック表を職員間で共有し、ひとり一人の表情や仕草を観察して、声掛け誘導し、トイレでの排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態や食事の咀嚼・嚥下状態などを観察、検討し、本社看護師からもアドバイスをもらいながら個々の状況に合わせて食形態の工夫をし提供している。軽い運動の働きかけを行い便秘の予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	本人のその日の体調や気分に加え、本人なりの理由にも耳を傾けるようにしている。その日の入浴予定順番も特別な理由がない限り、本人の意向に添うように努めている。	浴槽は1階ユニットが3点介助式で職員に配慮している。入浴は週2回で、曜日等予定は決めているが、利用者の状況に合わせて、個々に沿った入浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の関わりを大事に夜間安眠に繋げるよう職員間で連携している。個々の安眠を邪魔せず、皮膚の状態を考慮し定期的にパット確認やオムツ交換を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬のタイミングや量、方法について不安や疑問がある時は、その都度主治医や本社看護師に相談を行い、指示をもらって対応している。服薬内容も含めた受診内容は受診記録で情報共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物置みを自分のペースで取り組んだり、職員と一緒に創作活動を行うことやリビングにかかるCDの曲を選んでもらうこと、散歩や外気浴するなど個々の嗜好に合った支援に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に外出、外食したりご家族と一緒に外食する機会がある。ご本人の希望する外出先は認知症の進行により、入居者様全員の希望に添えない場合も出てきている。添うことが難しい場合はご家族の面会機会を増やせるように努めている。	日常的にゴミ出しついでに近隣の散歩や外気浴をしている。外出行事は、お花見や紅葉見学のドライブ、平岡公園、滝野公園など季節に応じた外出の支援をしている。	ユニットにより利用者の身体状況は異なるが、家族と一緒に外出の企画を検討したり、利用者の意向による個別の支援など多様な外出の支援を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームの夏祭りでは縁日風の催しを行い楽しんで頂き、食事は焼きそばやお寿司などを揃え、ご家族同伴でゲームや物品購入が出来るよう支援を行っている。一部の入居者様は財布を自己管理し職員と日用品の買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人から贈り物が届いた時は、ご本人からお礼の電話を掛け、お孫さんやご家族からお手紙やはがきが届いた時はすぐに手渡し、要望により読み上げなどの対応をしている。電話があった時は都度電話に出れるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングではリラックスできるよう耳に優しい音楽やお好みの音楽を掛け、日差しが気になる時はこまめにカーテンを開け閉めして光や温度管理をし、過ごしやすい場所を提供している。入居者様が作成した季節の作品等を掲示し日々の移り変わりを感じて頂くようにしている。	共用空間は、採光や風通しもよく、室温や湿度も適切に管理され、清潔感を感じる広くゆったりしたリビングで、利用者はいつも寛いで過ごしている。壁には、利用者の作品や行事の写真が掲示され、季節や楽しさを感じる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング内で団欒できるようにテーブルや椅子の配置を工夫し、気の合った入居者様同士でお話できるようにしたり、一人の時間を過ごせるよう席を設け、その時の状況に合わせた空間づくりをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時からの馴染みの家具や、テレビ、装飾物、写真などに囲まれている。配置は本人の使い勝手、身体状況を配慮しながら、安全を確保した動線を考えご本人、ご家族と相談して行っている。	居室には、収納クローゼットがあり、特殊寝台はレンタル対応となっている。利用者は使い慣れた家具や馴染みの物を持参して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリーで車椅子でも十分に広い空間が確保されている。対面キッチンが食事の準備段階から自然にコミュニケーションが取れる。。居室には写真付きのネームプレート、トイレなどには立体的な表示をつけている。		